

令和 7 年 4 月 2 4 日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

山口県教育委員会会議 次第(案)

4月24日(水) 9:30~10:30

○ 開会の宣言

○ 署名委員の指名 藤田委員、廣兼委員

議案

資料①

番号	件名	主管課	
1	令和7年度山口県教科用図書選定審議会に対する諮問について	義務教育課	p2

報告事項

番号	件名	主管課	
1	令和7年度山口県公立高等学校入学者選抜の実施状況について	高校教育課	p6
2	令和8年度山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜実施大綱について	県立高校再編整備推進室	p20
3	全国高校総体「山口県プロモーション動画」について	学校安全・体育課	-

議案第1号

令和7年度山口県教科用図書選定審議会に対する諮問について

このことについて、別紙のとおり諮問する。

令和7年（2025年）4月24日

山口県教育委員会

令 7 教 義 第 号

令和 7 年（2025 年）4 月 2 4 日

山口県教科用図書選定審議会長 様

山口県教育委員会

教科用図書の採択の基準及び選定に必要な資料について（諮問）

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和 3 8 年法律第 1 8 2 号）

第 1 1 条第 1 項の規定に基づき、下記の事項について貴会の意見を問います。

については、5 月 2 0 日（火）までに答申願います。

記

- 1 義務教育諸学校における令和 8 年度使用教科用図書の採択の基準について
- 2 採択関係者に提示する令和 8 年度使用教科用図書の選定に必要な資料について

諮 問 事 項

1 義務教育諸学校における令和8年度使用教科用図書の採択の基準について

義務教育諸学校の教科用図書の採択権者は、県教育委員会の指導、助言又は援助によって採択することになるので、これらの採択に関する事務が適正かつ円滑に行われるために、県教育委員会は、次の事項に関し一般的な基準を示す必要がある。

- (1) 義務教育諸学校の教科用図書（一般図書を除く。）の採択について
- (2) 一般図書（特別支援学校・学級用）の採択について
- (3) 教科用図書の採択に当たり特に留意すべき事項について

2 採択関係者に提示する令和8年度使用教科用図書の選定に必要な資料について

- (1) 今年度は、県立中学校（岩国高等学校附属中学校及び下関西高等学校附属中学校）の各教科の教科用図書について採択が行われる年であることから、諸種の角度から総合的に研究調査し、その特徴等を簡潔に叙述した「選定資料」を作成しなければならない。

したがって、次の事項について明らかにする必要がある。

- ① 「選定資料」を作成するにあたっての研究調査の観点について
- ② ①の各観点における研究調査の結果について

- (2) 一般図書（特別支援学校・学級用）は、文部科学省から示されている「令和7年度用一般図書契約予定一覧」に掲載された図書及び令和6年度に山口県で多く採択された図書のうち、近年研究調査されていないものの一部を対象に調査する。

対象とした一般図書について、諸種の角度から総合的に研究調査し、その特徴等を簡潔に叙述した「選定資料」を作成しなければならない。

したがって、次の事項について明らかにする必要がある。

- ① 「選定資料」に掲載する一般図書及びその内容による分野について
- ② 「選定資料」を作成するにあたっての研究調査の観点について
- ③ ②の各観点における研究調査の結果について

義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択について

1 義務教育諸学校で使用する教科用図書の種類

- (1) 文部科学省検定済教科書（検定本）→→→学校教育法第34条等により使用の義務
- (2) 文部科学省著作教科書（いわゆる星本）→→学校教育法第34条等により使用の義務
- (3) (1)(2)以外の一般図書（特別支援学校・学級用）
 - ・特別支援学校及び特別支援学級等において適切な教科書がないときに使用が許される。
 - 通常、知的障害などのための特別な教育課程を編成する児童生徒に対して使用され、絵本などが選ばれることが多い。

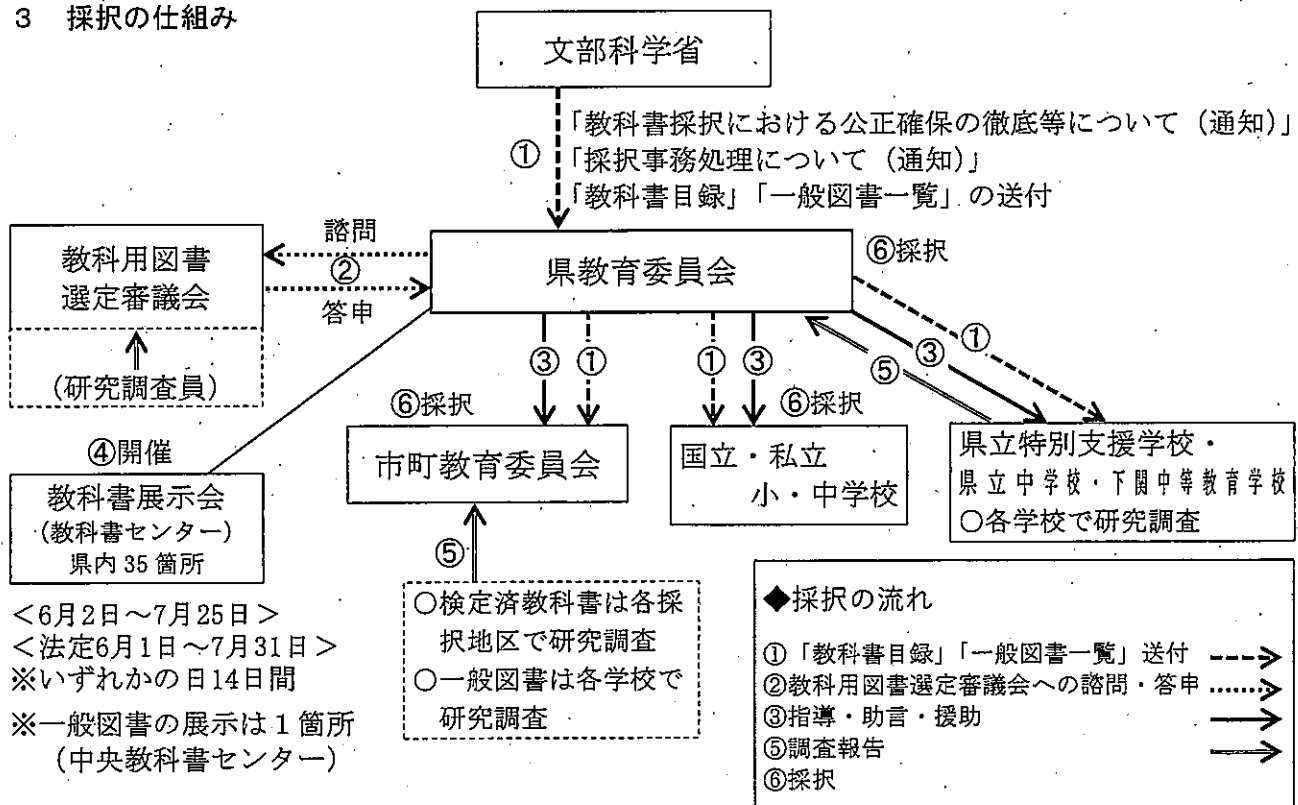
◎:検定 △:採択 ○:使用開始

学校 種別等区分		年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
			H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
小学校	検 定				道徳◎	◎	新◎				◎				◎
	採 択		△			道徳△	△	新△				△			
	使 用 始			○			道徳○	○	新○				○		
中学校	検 定		◎			道徳◎	◎	新◎				◎			
	採 択			△			道徳△	△	新△	(△歴史)			△	新採立2校	
	使 用 始				○			道徳○	○	新○				◎	新採立2校

2 教科用図書の採択替え

- (1) 検定本…4年に一度
- (2) 一般図書…毎年（児童生徒の状況に応じて適切な教科書を選ぶため）
- (3) 採択の周期 ※一般図書を除く

3 採択の仕組み



4 採択権者について（上図⑥）

- *市町立小・中学校…学校を設置する市町教育委員会
- *県立特別支援学校…県教育委員会
- *県立中学校・下関中等教育学校…県教育委員会
- *国立・私立小・中学校…各学校の校長

令和7年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査得点状況について

高校教育課

1 学力検査について

- (1) 実施日時 令和7年3月5日(水) 午前9時から午後3時まで
- (2) 実施教科 国語、社会、数学、理科及び英語
- (3) 実施時間 各教科とも50分
- (4) 配点 各教科50点満点

2 学力検査得点状況について

- (1) 受検者数 全日制課程 5,381人 定時制課程 237人 合計 5,618人
- (2) 教科別の平均点 国語 29.3点、社会 26.6点、数学 24.7点、理科 27.9点、英語 23.9点
- (3) 「得点の合計」の平均点 132.4点(最高点 241点)
- (4) 「得点の合計」の分布状況 別紙のとおり

※ 入学者選抜実施状況については、別紙のとおり

3 学力検査の結果について

別紙のとおり

令和7年度山口県公立高等学校入学者選抜のための学力検査得点状況

1 受検者数及び教科別得点状況

受検者数	5,618 (5,790)					
教科名	国語	社会	数学	理科	英語	得点の合計
平均点	29.3 (31.5)	26.6 (24.5)	24.7 (23.1)	27.9 (26.8)	23.9 (26.6)	132.4 (132.4)
最高点	49 (48)	50 (50)	50 (50)	50 (50)	50 (49)	241 (234)
最低点	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (8)

注1 全教科を受検した者について集計したものである。

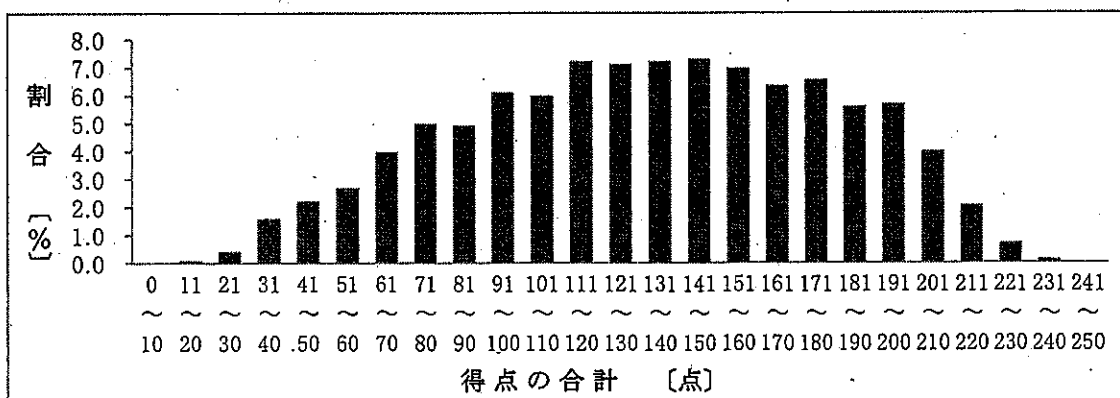
2 各教科とも50点満点、「得点の合計」は250点満点である。

3 () 内の数値は、昨年度のものである。

2 「得点の合計」の分布状況

得点範囲 [点]	人数 [人]	割合 [%]
241 ~ 250	1	0.0
231 ~ 240	7	0.1
221 ~ 230	40	0.7
211 ~ 220	116	2.1
201 ~ 210	225	4.0
191 ~ 200	320	5.7
181 ~ 190	314	5.6
171 ~ 180	368	6.6
161 ~ 170	357	6.4
151 ~ 160	392	7.0
141 ~ 150	411	7.3
131 ~ 140	406	7.2
121 ~ 130	399	7.1
111 ~ 120	406	7.2
101 ~ 110	336	6.0
91 ~ 100	343	6.1
81 ~ 90	277	4.9
71 ~ 80	280	5.0
61 ~ 70	223	4.0
51 ~ 60	152	2.7
41 ~ 50	124	2.2
31 ~ 40	90	1.6
21 ~ 30	24	0.4
11 ~ 20	5	0.1
0 ~ 10	2	0.0
合 計	5,618	100

注 割合は、小数第2位を四捨五入したものである。



令和7年度山口県公立高等学校入学者選抜

学力検査の結果の概要及び今後の学習指導に向けて

令和7年4月

山口県教育委員会

令和7年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について

1 出題の概要

令和7年度の学力検査の出題については、中学校教育の充実と発展に資するよう、中学校学習指導要領（平成29年告示）に準拠しつつ、以下のとおりとした。

- 学習の到達の状況を把握するため、総合的に学力をみることができるよう、基礎的・基本的な内容と応用的な内容について均衡を図って出題した。
- 知識及び技能の習得状況を適切に測る内容を出題するとともに、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を測る内容を重視した問題を出題した。

2 結果の総評

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を測る問題、思考力、判断力、表現力等を測る問題のいずれについても、全般として平素の学習の成果が表れていたが、一部には課題もみられた。
- 表やグラフなどの資料を基に、身に付けた知識と関連付けて情報を読み取ったり、表現したりする力をみる問題では、学習内容の定着や情報の読み取りが十分でない解答が多くあり、更に努力が必要な状況がみられた。
- 今後とも、学習内容と日常生活を関連付けるなど、学ぶことの意義や有用性を実感できるような学習活動の充実を通して、学習に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切である。また、主体的・対話的で深い学びの実現により、知識及び技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することが重要である。

国語

1 出題の特徴

- 国語に関する基礎的・基本的な力をみるとともに、文章の種類を踏まえて、登場人物の心情や筆者の主張、物語や論理の展開の仕方などを適切に捉える力をみる問題を出題した。
- 複数の文章や図表などを結び付けながら内容を適切に解釈し表現する力をみるとともに、国語に関する知識及び技能を実生活の場面で活用する力をみる問題を出題した。
- 作文の問題について、目的や意図に応じて必要な材料を集め、自分の考えを分かりやすく伝える力をみる問題を出題した。

3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

《問題例①》

二 〈問題文は、岡田美智男「〈弱いロボット〉から考える一人・社会・生きること」から。ここでは省略〉

三 「「ロボットのようだ」と形容されるような、機械的でごちないもの」とあるが、このようなロボットの歩き方を具体的に説明した部分を、文章中から十八字で書き抜きなさい。

正答 一つひとつ重心移動を確かめながら歩く

【解答の状況】

「すこし前のめりになって、倒れ込む感じ」など、筆者が「静歩行モード」について述べた箇所に着目することができていない解答がみられた。

【課題】

- 論理の展開に注意して、内容を的確に読み取ること。

【今後の学習指導に向けて】

- 文章全体と部分の関係に注意しながら、論理の展開を捉える学習活動の充実を図ること。
 - ・ 各段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読んだり、文章中に示されている筆者の主張と具体例との関係を考えながら読んだりすることに留意させたい。
 - ・ 論理展開がやや複雑な文章の読解に挑戦する機会を設けるとともに、例えば、文章全体の構成や論理の展開を意識しながら読解したり、理解した内容を文章にまとめて発表したりする学習活動の充実を図ることが考えられる。

2 結果の概要

- 登場人物の心情の変化や論理の展開を的確に読み取り、適切に表現する力をみる問題（☐五）など）はいま一步であったが、基礎的・基本的な知識及び技能に関する問題（☐一、☐二）など）については、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 文章と図表を結び付け、内容を適切に解釈し表現する力をみる問題（☐三）などは、文章と図表との関連を適切に解釈することができておらず、いま一步であった。
- 作文（☐六）については、条件に即して必要な材料を集めて表現することができていないものがみられ、いま一步であった。

《問題例②》

四 〈Aさんが国語の時間に、自分が関心をもっていることについて発表を行う場面〉

三 Aさんは、発表の練習をした後、次の【Bさんの助言】をもとにしてスライド1を修正した。【発表の進行案】と【修正後のスライド1】を踏まえ、【Bさんの助言】の にあてはまる内容を、二十五字以内で答えなさい。

【Bさんの助言】

スライド1で示したタイトルでは、スライド1を説明する際にAさんが話したことを、十分に表現できていないような気がしました。聞き手に 表現になるように、タイトルを変更してみてください。

正答例 発表を通して考えてほしいことがはっきりと伝わる

【解答の状況】

【発表の進行案】のスライド1の内容にある「発表を通して考えてほしいことを話す。」に着目できていない解答が多くみられた。

【課題】

- 複数の文章や図表などを結び付けながら内容を適切に解釈し表現すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 文章と図表などを結び付け、情報と情報の関係について理解しながら、その関係を踏まえて内容を解釈する学習活動の充実を図ること。
 - ・ 文章のどの部分と図表のどの部分が関連しているのかに注意しながら、内容を解釈することを意識させたい。
 - ・ 表、グラフなど様々な資料を文章と関連付けて読む機会を設けるとともに、例えば、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の学習において、情報と情報との関係について理解したことを表現する活動の充実を図ることなどが考えられる。

社会

1 出題の特徴

- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念の理解、技能の習得状況をみる問題を出題した。
- 知識及び技能を活用して、多様な資料から情報を読み取り、適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 複数の資料を用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察する力をみる問題を出題した。

3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

《問題例①》

1 (略)

(2)イ 表Iは、2021年におけるアメリカ合衆国、中国、フランスの発電量の内訳と1人当たり電力消費量を示したものである。A～Cにあてはまる国名の組み合わせとして正しいものを、下の1～6から一つ選び、記号で答えなさい。

表I

国名	発電量の内訳 (%)				1人当たり 電力消費量 (kWh)
	火力	水力	原子力	再生可能 エネルギー (水力を除く)	
A	66.3	15.6	4.7	13.4	5,848
B	8.4	11.5	68.3	11.8	6,908
C	60.8	6.3	18.6	14.3	12,613

(「データブック オブ・ザ・ワールド2024年版」により作成)

	1	2	3	4	5	6
アメリカ合衆国	A	A	B	B	C	C
中国	B	C	A	C	A	B
フランス	C	B	C	A	B	A

正答 5

【解答の状況】

「2」や「4」を選択するなど、各国の発電量の特徴に関する知識を活用できていないと思われる解答が多くみられた。

【課題】

- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の確実な定着を図り、社会における様々な場面で活用できるようにすること。

【今後の学習指導に向けて】

- 基礎的・基本的な知識を活用する学習活動の充実を図ること。
 - ・ 基礎的・基本的な知識の確実な定着を図るとともに、既習の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、社会における様々な場面で活用できるようにする必要がある。
 - ・ 例えば、既習の知識と資料から読み取った情報を関連付けて表現する学習活動の充実を図ることが考えられる。

2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識や概念の理解、技能の習得状況を見る問題 (1)(1)、(5)(1)など) については、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 知識及び技能を活用して、多様な資料から情報を読み取り、適切に表現する力を見る問題 (1)(2)イなど) については、いま一步であった。
- 複数の資料を用いて、社会的事象について多面的・多角的に考察する力を見る問題 (3)(6)など) については、必ずしも十分とはいえなかった。

《問題例②》

3 (略)

- (6) Rさんは、国や地域をこえた情報や物品の移動について調べる中で、資料Ⅳを見つけた。Rさんは、資料Ⅳから、琉球が、明との朝貢貿易において、他の国や地域よりも優遇されていることを知り、当時の琉球の貿易のようすについて、資料Ⅴ、図Ⅲを用いて考察した。明との朝貢貿易において優遇されている立場を利用した琉球が、14世紀後半から16世紀半ばにかけて、東アジア及び東南アジア地域で果たした役割について、資料Ⅴ、図Ⅲから読み取れることをもとに説明しなさい。

資料Ⅳ 明との朝貢貿易の回数

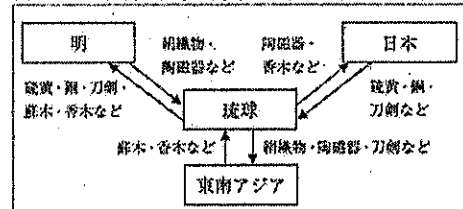
国名	回数
琉球	171回
安南(ベトナム)	89回
朝鮮	30回
日本	19回

(『アジアのなかの中国日本』により作成)

資料Ⅴ 倭寇に対する明の政策

14世紀後半、明は中国沿岸一帯に大きな被害を与えていた倭寇をおさえるために、中国人商人の海外渡航や民間の貿易を禁止した。そのため、明は以前に比べると、海外の産品を入手することが困難になった。

図Ⅲ 15世紀頃の琉球の貿易のようすを示した模式図



(注) 鹿角は、薬材などに用いられる植物。香木は、香りを放つ木材。

正答例 外国との貿易を制限する明と、東アジアや東南アジアの各地域とを結ぶ交易の中心としての役割を担った。

【解答の状況】

「琉球は、いろいろな国と貿易をしていた」など、資料Ⅴと図Ⅲから読み取れることを適切に関連付けて考察することができていない解答がみられた。

【課題】

- 歴史的事象について、複数の資料から読み取れることを相互に関連付けて考察すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 複数の資料から読み取れることを相互に関連付けながら、歴史的事象について多面的・多角的に考察する力の育成を図ること。
 - ・ 地図や年表、各種の統計などの多様な資料に平素から親しめるとともに、資料から読み取れることを相互に関連付けながら、歴史的事象の意味や意義等について多面的・多角的に考察する力を育成する必要がある。
 - ・ また、考察した結果を、根拠をもって自分の言葉で表現できるようにするために、文章で表現したり、意見交換したりするなどの活動の充実を図ることが考えられる。

数 学

1 出題の特徴

- 基礎的・基本的な内容について、概念や原理・法則などの理解及び事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能の習得状況を見る問題を出題した。
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力をみる問題を出題した。
- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をみる問題を出題した。

3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

《問題例①》

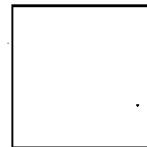
5 (略)

- (1) Sさんは長方形の花だんから正方形の花だんへの花の植え替えを手伝った。長方形の花だんは、横の長さが縦の長さの4倍であり、周の長さは30mであった。長方形の花だんの面積が正方形の花だんの面積と同じとき、正方形の花だんの1辺の長さを求めなさい。

長方形の花だん



正方形の花だん



正答 6 m

【解答の状況】

「7.5」や「12」など、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりすることができていない解答がみられた。

【課題】

- 事象を数理的に捉えることや、数学的に解釈したり、表現・処理したりすること。

【今後の学習指導に向けて】

- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現・処理する力の育成を図ること。
 - ・ 文章から問題解決のために必要な情報を正しく読み取り、式に表すとともに、方程式を活用して問題を解決する力を確実に育成する必要がある。
 - ・ 例えば、生徒が既習の数学を基にするなどして自ら問題を見いだしたり、問題から導かれるであろう結果を予想したり、結果を吟味しあったりする機会を設定することが考えられる。

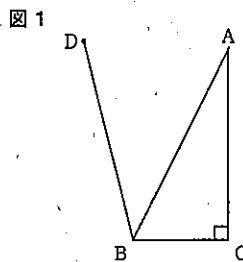
2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得の程度をみる問題（[2]など）については、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的な表現を用いて論理的に考察する力をみる問題（[4]など）については、いま一步であった。
- 事象を論理的に考えたり、柔軟に思考したりしながら、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力をみる問題（[6]など）については、いま一步であった。

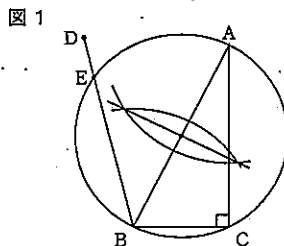
《問題例②》

6 (略)

- (1) 図1において、 $\triangle ABC$ は $\angle C = 90^\circ$ の直角三角形であり、点Dは $\triangle ABC$ の外部の点である。線分BD上にあり、 $\angle EBA = \angle ECA$ となる点Eを定規とコンパスを使って図1に作図しなさい。ただし、作図に用いた線は消さないこと。



正答例



【解答の状況】

円周角の定理の逆を利用して作図の方針を立て、それに基づいて作図することに気付かない解答が多くみられた。

【課題】

- 図形の性質を見だし、論理的に考察すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力の育成を図ること。
 - ・ 図形の基本的な性質を論理的に確かめる力や、作図の方法を考察し、それに基づいて表現する力を育成する必要がある。
 - ・ 例えば、学習活動の全体を通じて得られた知識・技能を統合し、思考、態度が変容する「深い学び」を実現する活動の充実を図ることが考えられる。

理 科

1 出題の特徴

- 自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況、概念や原理・法則の理解の程度をみる問題を出題した。
- 見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、考察したことを適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 日常生活や社会との関連を重視した科学的に探究する活動において、課題を考察する力や解決する力をみる問題を出題した。

3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

《問題例①》

6 (略)

(略)

しさん： 飛行機は(ア)風の向きによって離陸の向きを変えるんだ。

- (1) 下線(ア)について、次の文章が、風のふき方とその表し方を説明したものとなるように、()の中のa～dの語句について、正しい組み合わせを、下の1～4から1つ選び、記号で答えなさい。

風は気圧の(a 高いほうから低いほうへ b 低いほうから高いほうへ)ふこうとする。風向は方位で表し、例えば北から南に向かってふく風の場合、風向は(c 北 d 南)となる。

- 1 aとc 2 aとd 3 bとc 4 bとd

正答 1

【解答の状況】

「2」を選択するなど、風向について理解できていない解答が多くみられた。

【課題】

- 気象に関する基礎的・基本的な知識を確実に習得すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 基礎的・基本的な知識の確実な習得を促すため、日常生活と関連させた学習活動の充実を図ること。
 - ・ 気象観測を行い、その観測記録などに基づいて、風向、湿度などの変化と天気との関係を見いだして気象に関する知識を獲得させる必要がある。
 - ・ また、天気図や気象衛星画像、アメダスなどのデータを活用し、気象についての理解を深める学習活動の充実を図ることも必要である。

2 結果の概要

- 自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況、概念や原理・法則の理解の程度をみる問題（**1**～**4**など）については、一部に課題もみられたが、おおむねできていた。
- 見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、考察したことを適切に表現する問題（**7**（3）、（4）、**8**（3））については、必ずしも十分とはいえなかった。
- 日常生活や社会との関連を重視した科学的に探究する活動において、課題を考察する力や解決する力をみる問題（**9**（1）、（4））については、いま一歩であった。

《問題例②》

8 （略）

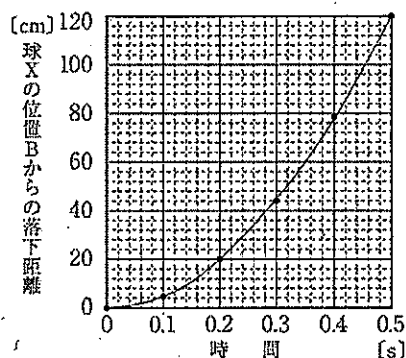
（3）（略）

表2

時間 [s]	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
球Xの位置Bからの落下距離 [cm]	0	4.9	19.5	44.7	78.4	119.8
球Xの0.1秒間の落下距離 [cm]		4.9	14.6	25.2	33.7	41.4

ア [実験2]における球Xの運動についての「時間」と「球Xの位置Bからの落下距離」の関係を表すグラフを、図4にかきなさい。

正答



【解答の状況】

表から必要な情報を適切に読み取れていないことから、プロットを適切に示していないものや、プロットを滑らかな曲線でつなげていない解答が多くみられた。

【課題】

- 実験結果を適切に読み取り、それを基に適切にグラフを作成すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 自然の事物・現象の規則性や関係性を見いだすことなど、思考力、判断力、表現力等の育成を図ること。
 - ・ 実験・観察の技能や関連する知識の定着を図るとともに、実験結果を分析して解釈することを通して、思考力、判断力、表現力等を育成する必要がある。
 - ・ 例えば、表やグラフを含む実験レポートの作成や、実験結果や考察についての発表を行うなどの学習活動の充実が考えられる。

英 語

1 出題の特徴

- 日常的な話題に関する対話を聞いて概要を捉える力、目的に応じて英語を聞き必要な情報を聞き取る力、説明を聞いて要点を捉える力をみる問題を出題した。
- 対話文やエッセイなど、まとまりのある文章を読んで、概要や要点を捉える力、目的に応じて必要な情報を読み取る力などをみる問題を出題した。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、伝える内容を整理し、英語で論理的に表現する力をみる問題を出題した。

3 課題がみられた問題例及び今後の学習指導に向けて

《問題例①》

2 次の英文は、Naokiとオランダからの留学生のAmyとの対話の一部である。(略)

- (3) 対話の内容に合うように、下線部(D)に入る適切な英語 1 語を書きなさい。
(対話は一部省略)

Amy: Really? I want to know more about *ukiyo-e*.

Naoki: Oh! Next Sunday, I'm going to (D) the art museum to see *ukiyo-e* with my family. Why don't you come with us?

Amy: Yes! Thank you.

正答例 visit

【解答の状況】

直後に前置詞の to を必要とする“go”と解答したものが多くみられた。また、“beautiful”など、文構造を適切に捉えられていない解答もみられた。

【課題】

- 実際のコミュニケーションにおいて、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用すること。

【今後の学習指導に向けて】

- 語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識は、「実際に英語を用いた言語活動」において活用し、思考・判断・表現することを繰り返しながら定着を図ること。
 - ・ 外国語を適切に使用するためには、語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、話したり書いたりするなどの実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。
 - ・ 例えば、教師とALTのスマールトークにおいて、話し手の“I'm going to go to Nara next week.”に対して、聞き手が“Sounds nice. You should visit Horyuji Temple.”と応答するなど、多様な言い回しや言い換え表現を自然なやり取りの中で提示することによって知識の定着・活用を図っていくことが考えられる。

2 結果の概要

- 対話を聞いて概要を捉える力をみる問題 (1テスト1)、目的に応じて必要な情報を聞き取る力をみる問題 (1テスト2) はできていたが、まとまりのある英語を聞いて要点を捉える力をみる問題 (1テスト3) の一部は、いま一歩であった。
- まとまりのある文章を読んで概要や要点を捉える力をみる問題 (4)(2)(3) など) は必ずしも十分とはいえなかったが、目的に応じて必要な情報を読み取る力をみる問題 (3)(2) はできていた。
- 目的や場面、状況に応じて伝える内容を整理し、自分の考えを英語で論理的に表現する力をみる問題 (6) は、いま一歩であった。

《問題例②》

- 6 (略) あなたが Makoto ならば、何を発言するか。ディベートの流れに合うように、 に発言の内容を書きなさい。ただし、下の【注意】に従って書くこと。〈ディベートは一部省略〉

Chairperson: (略) Today's topic is "Which is better for sharing important information, an e-mail, or a phone call?" First, we want to listen to people who think an e-mail is better.

Makoto: We think an e-mail is better. We have two reasons.

So, an e-mail is better for sharing important information.

正答例 First, we can check the message that we wrote many times before we send it.
Second, we can read the message when we need the information again.

【解答の状況】

文頭に First、Second など順序を示す表現を用いて書くことはできていたものの、正しい語順で文を構成し、読み手にうまく伝わるように表現することができていない解答がみられた。

【課題】

- 事実や自分の考えなどを整理し、適切な英語を用いて、まとまりのある内容を伝えること。

【今後の学習指導に向けて】

- 自分の考えや主張を、理由や根拠とともに話したり書いたりする言語活動の充実を図ること。
 - ・ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、全体として一貫性のある内容となるように、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えや主張を書くなどの言語活動を行うことが考えられる。

令和 8 年度山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜実施大綱

1 応募資格

次の各号のいずれかに該当する者が応募できる。

- (1) 保護者（児童に対して親権を行う者をいい、親権を行う者のないときは、未成年後見人をいう。以下同じ。）の住所が県内にある者（下関中等教育学校への応募については、保護者の住所が県外にある者のうち、保護者の住所から通学可能なものを含む。）で、令和 8 年 3 月に小学校等を卒業する見込みのもの
- (2) 山口県教育委員会教育長が特別に出願を許可した者

2 入学定員等

(1) 入学定員

山口県立岩国高等学校附属中学校	60 人
山口県立下関西高等学校附属中学校	60 人
山口県立下関中等教育学校	90 人

(2) その他

下関中等教育学校において、保護者の住所が県外にある者を入学させることができる人数は、原則として、入学定員の 30 % に相当する人数以内とする。

3 出 願

出願の期間は、令和 7 年 12 月 1 日（月）から 12 月 5 日（金）午後 5 時までとする。

4 選 考 検 査

- (1) 選考検査においては、記述式の課題 1、記述式の課題 2 及び個人面接を実施する。また、集団面接を実施することができる。

ア 記述式の課題 1	資料をもとに考えたこと等を問う内容とする。
イ 記述式の課題 2	
ウ 個人面接	
エ 集団面接	・・・ 集団面接を実施する学校は、実施要領で定める。

(2) 実施期日

令和 7 年 12 月 20 日（土）

※ 令和 7 年 12 月 20 日（土）に実施するが、面接を 1 日で実施できない学校にあっては、12 月 21 日（日）にも行うことができる。

(3) 検査会場

志願先中学校又は中等教育学校

5 選 抜

(1) 選抜の資料

ア 小学校等の校長が作成する調査書
イ 記述式の課題 1 及び記述式の課題 2
ウ 面接

(2) 入学予定者の決定

県立中学校及び中等教育学校の校長は、調査書、選考検査の結果により入学予定者を決定する。

(3) 入学予定者の発表

令和 8 年 1 月 6 日（火）午前 10 時に、それぞれの学校で掲示等により発表する。
なお、選抜の結果については、受検者全員に郵送で通知する。

6 そ の 他

この大綱に定めるもののほか、県立中学校及び中等教育学校の入学者選抜に関し必要な事項は、山口県教育委員会が実施要領で定める。